



Japan Federation of Architects & Building Engineers Associations Tokushima Convention 2008



新たな連(REN)の姿をめざして

とくしま大会テーマのキーワードである「連(REN)」は、私たち建築士を取り巻き、現在進行形で起こっている社会環境の変化に対して、建築士がめざすべき課題である専門分化された建築士相互の連帯や連携を意味する重要なキーワードである。また、RENは「Region Encouraged by Network」(ネットワークにより活気づく地域)の略語(頭字語)でもあり、地域の活性化をめざした建築士と市民、NPOや行政などの多様な主体からなるネットワークを意味するキーワードでもある。とくしま大会では、アスティ会場でのセッションや交流プラザ、式典において、またサテライト会場でのコラボレーションプラザでの協働イベントを通して、地域に密着した建築士が「もの・まち・くらしづくり」の中で、市民と協働したことで地域が活性化した実践事例や体験を軸に、建築士の連帯も含めた協働型ネットワークの豊かさや大切さを、全国に大きなメッセージとして発信することができた。大会終了と同時に、参加者からは「徳島らしい大会」「楽しい大会」「さすが徳島!」このようなお褒めをいただいている。

全国からの賞賛は、まさに全国からの期待である。あらためて、この大切なメッセージの発信元である徳島県建築士会の責任と役割を、少しずつではあるが感じ始めている。そして、私たちは大会を開催したことを大いなる「きっかけ」として、次のステージに上がる努力を、それぞれの立場で実践すべきだと感じている。すでにその兆候は見え始めている。セッションや交流プラザで議論した内容やめざすべきネットワークづくりへの取り組みの要望を連合会に文章で提出している。また、東新町商店街では、空き店舗を活用した新たなプロジェクトが企画されようとしている。あせる必要はないと思う、しかし大会を成功させた高揚感が冷めやらない間に、私たちにできる新たな連(REN)の姿を考え、その姿の実現をめざす展開イメージを持つことが、私たちには求められている。

おわりに、徳島県建築士会の466名が実行委員として登録参加し、そのうちの407名が大会開催日とその前後2日間、アスティ会場とサテライト会場である中心市街地のさまざまな場所や場面で、黄色のバンダナを着けた大会スタッフとして心地良い汗を流した。その光景が、全国から参加した建築士に大いに感動を与え、さらに県民や市民に建築士の存在を示すことができたと確信している。あらためて、全国から参加していただいた多くの建築士諸兄および大会スタッフとして参加していただいた実行委員には心より感謝をしたい。

とくしま大会事業運営会議議長 佐藤幸好